

(3) スタディツアーの取組

① 埼玉福興 株式会社

ア 法人概要

所在地	埼玉県熊谷市弥藤吾 2 3 9 7 - 8		
代表者	代表取締役 新井利昌	創立年	平成 8 年
主産品	葱の苗、オリーブ製品	耕作面積	4 ha

イ 取組主体の選定理由（当初よりスタディツアーとして選定）

（ア）事業の位置づけがソーシャルファームであり、「福」の広がりを実現している法人であることから、体験に留まらず多様な方面の学びのニーズに応えられるであろうこと。触法障害者を受け入れ、農作業のリーダーとして育成し更生に成功するなど、刑務所出所者等の農福連携事業所での先行優良モデルであること。

（イ）農福連携に取り組む事業所として全国的なネームバリューがあり、先進事業所のひとつであること。

ウ スタディツアーの概要

○実施日 令和 5 年 3 月 2 日（木）

○行 程 熊谷駅集合

タクシーにて「埼玉福興」へ移動
午前、点在する圃場・施設および
提携している特例子会社を視察
昼食はグループホームの食堂にて
（菓膳料理のランチ）

午後、藍染体験と質疑応答
終了後、タクシーで熊谷駅へ

○負担金 参加費 1,000 円、昼食代実費



エ スタディツアーの参加法人

法人種別	参加者数
保護司会	3
社会福祉法人	2
更生保護法人	5

オ 当日のカリキュラムの様子

カリキュラム	視察風景
①主催者挨拶、オリエンテーション ②長葱の苗床ハウス 300 農家に苗を供給。農家を支える農業。 ③オリーブオイル搾油作業所 世界レベルの賞を受賞。 ④苗テラス（玉葱の苗床づくり） ⑤ハウス（ほうれん草水耕栽培） 年間 17 回転。知的・精神・保護観察混在。 ⑥イーピーエス社の特例子会社の圃場 ジャガイモ植付。3 年前に 3 名でスタートし、現在 18 名に。埼玉福興と多層的に連携。 ⑦イーピーエス特例子会社の社屋（旧牛舎） 障害者社員は、50m の距離にある埼玉福興運営のグループホームに居住。 ⑧オリーブ畑 無農薬・無肥料のオリーブ畑。ローマ法王に献上された菓子に埼玉福興のオリーブの葉が使われている。	 ②長葱の苗床ハウス  ③オリーブオイル搾油作業所  ⑥イーピーエス社の特例子会社圃場  ⑦同社の社屋  ⑧オリーブ畑
⑨グループホーム クラリスホームの食堂 ⑩薬膳ランチ 五穀米、深谷ネギ、揚げ豆腐、菜の花和え、ポタージュスープのラインナップ。彩りの摘みたて菜の花もそのまま食す。藍染の指導者も務める猪爪氏考案のメニュー。	 ⑨クラリスホーム食堂  ⑩薬膳ランチ
⑪藍染工房 クラリスホームの敷地内に建てられた工房。ストールなどの製品もここで染められる。埼玉福興では藍の栽培も行っている。 ⑫藍染体験 5 人ずつ 2 組に分かれて体験。	 ⑪ 藍染工房  ⑫藍染体験

カ アンケート結果

■「埼玉福興」が取り組んでいるソーシャルファームについての感想

- 今後のソーシャルファームの方向性について大変勉強になった。
- 農業で障害者や触法者の働く場所があり、農家の支えになっていること、ステップアップとして雇用として働く場もあり、地域・企業とともに連携している理想的なソーシャルファームだと感じた。農業を通して地域の活性化にもつながっていることを感じた。
- 場所の広さや扱う種類の多さなど、想像以上の規模に驚いた。利用者が自主的に関わっている姿も印象に残っている。
- 7～8年前に訪問し2度目だったが、特例子会社との有機的な連携、オリーブの森の発想、エコツーリズムなど発展形で驚きとともに感動した。確実に次の担い手が育ち、支援者・被支援者の垣根なく地域の発展と一体化しているところが素晴らしかった。
- 持てる組織や人を結びつけられていること、互いが活かされていること、相応の利益が上がっていること、楽しそうにやっていること、さらに社会課題の解決まで目指していることなど素晴らしいの一言。
- 持続可能な社会を考えるうえで、たくさんのヒントがあった。

■スタディツアーの提案先として想定できる組織

- 各保護司会に声掛けして、スタディツアーをすることや、更生保護女性会などの見学もよいと思った。
- 全厚連では次年度、農林水産業連携事業部を設ける予定なので、住まいと就労、自立支援と様々な立場から力を出し合えば、さらに面白いことができると思う。
- 全国更生保護法人連盟、就労支援事業者機構と関わっていただき、提携可能な取組にしていきたい。
- 福祉系の大学。

■その他 ご意見・ご要望

- 農業の持つ潜在力やすばらしさを感じた。人に合わせて仕事を作っているというのはすばらしいと思った。
- 藍染体験を含め、様々な「現場」をみせていただき、学ぶことが多かったが、最初に事業の「全体像」的なものを少し説明していただくとより理解が深まったように思う。

② 社会福祉法人 ゆずりは会 菜の花

ア 法人概要

所在地	群馬県前橋市青梨子町 6 6 8 - 2		
代表者	施設長 小淵 久徳	開所年	平成 2 6 年
主産品	枝豆、玉葱、ブロッコリー	耕作面積	1 4 ha

イ 取組主体の選定理由

(ア) 農福連携に取組む事業所として全国的なネームバリューがあり、先進事業所のひとつであること。

(イ) 首都圏から 1 泊圏内で、車で 3 0 分程の距離に温泉地（伊香保温泉）もあり、観光要素を加えた農福体験ツアーを、障害者を持つ家族に訴求する場合、立地が適していること。

ウ 遠隔地募集で結果を得られずスタディツアーへ転換

農福体験ツアーとしては 2 月 3 日出発 1 泊で、募集ルートを「一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会」役員から東京都の育成会事務局に協力要請する形としたが、結果は集客ゼロであった。その後、J A グループ 全国機関、農福連携に関心のある企業等の農福連携担当窓口スタディツアーへの参加を打診したところ、参加者 6 名となった。

エ スタディツアーの概要

○実施日 令和 5 年 3 月 1 6 日（木）

○行 程 高崎駅集合

タクシーにて「菜の花」へ移動

午前、点在する圃場・施設を視察

昼食は近隣のベジレストランにて

（「菜の花」の野菜を使ったランチ）

午後、施設にて質疑応答

終了後、タクシーで高崎駅へ

○負担金 参加費 1,000 円、昼食代実費



オ スタディツアーの参加法人

法人名	参加者数
全国農業協同組合連合会	1
農林中央金庫	2
全国共済農業協同組合連合会	1
J A 共済総合研究所	2

カ 当日のカリキュラムの様子

カリキュラム	視察風景
①顔合わせ、自己紹介 参加者・理事長・施設長から自己紹介。 ②枝豆の圃場 法人全体で 10ha。JA のシェア約 5 割。5 月下旬収穫分は最高値で 400 円/袋。平均 200 円。 ③ライスセンター（乾燥、苗床） 乾燥機は JA からの払下げ。個別乾燥。 ④長葱の調整 ベルトコンベアを使つての調整作業。 ⑤規格外品を調整 近隣にある女性少年院に規格外品を納品。 ⑥田んぼ 小学 5 年生の総合学習用(田植え・稲刈り)。 ⑦コイン精米機 30 kg で 200 円。格安料金設定。 ⑧長葱種蒔ハウス ⑨グループホーム 菜の花と通りを挟んで目の前。5 年前設置。 （ここから「ゆずりは」の施設） ⑩泥葱調整 ⑪ビール麦、小麦の畑 ビール麦は、京都の酒造会社の原料に。 ⑫土器洗い 出土する土器を洗浄する内職所。 ⑬玉葱皮むき 高圧噴射機で手際よく皮をむく。 ⑭近隣のレストラン 「菜の花」から仕入れた野菜を使ったランチをご賞味。 ⑮意見交換会 質疑応答、補足説明などを行う。	 ②枝豆の圃場  ③ライスセンター  ④長葱の調整  ⑨グループホーム  ⑪ビール麦、小麦の畑

キ アンケート結果

■「ゆずりは会 菜の花」が取組んでいる農福連携についての感想

- 利用者の社会参画に具体的に取り組んでいる。
- 工賃向上、利用者の意欲向上、効率化の取組、全てが繋がっている。
- 周辺住民の理解を深めることも進めている。J A・企業との連携も進めている。
- 地域の多様な組織との連携を構築し素晴らしい取組をしている。
- 理念のシンプルさ、利用者目線の徹底、関係先の多様さに非常に感銘を受けた。
- 高工賃を追求している点が非常に特徴的。働き甲斐はもちろんのこと、自らが生活するための給料を得る、自立するという観点を大事にされていて、それを農業で達成するという点が素晴らしい。

■参加法人の農福連携の取組計画、今後の連携の可能性

- 日本農福連携協会、J A共済総研、J A共済連との包括連携協定による取組を推進する。
- 年に7回J A共済マルシェを開催しているので、農福連携商品を取扱う（ノウフクマルシェのような回も設定したい）。
- J A、農業者サイドの農福連携の推進にかかる取組をする。
- 農福連携への関心が高い県域や全農労働力支援ブロック協議会にスタディツアーを紹介することが可能である。

■その他 ご意見・ご要望

- 故郷の群馬で素晴らしい取組をされていることに敬意を表する。
- 皆さんが生き生きと働いている姿がとても印象的。
- 福祉施設で作ったものだから安かろう悪かろうではなく、J Aの規格に合致するものを作ろうとしていることが素晴らしい。
- J Aにとってゆずりは会の存在が非常に助かっているということで、地域を互いに支えていると感じた。
- 障害者の活躍はどういう姿を目指すべきかという観点を勉強になった。

③ 京丸園 株式会社

ア 法人概要

所在地	静岡県浜松市南区鶴見町380-1		
代表者	代表 鈴木厚志	法人創立年	平成26年
主産品	姫みつば、姫ねぎ	耕作面積	2.6ha

イ 取組主体の選定理由

(ア) 農福連携に取組む事業所として全国的なネームバリューがあり、先進事業所のひとつであること。

(イ) 中京圏から1泊圏内で、車で30分程の距離に温泉地（舘山寺温泉）もあり、観光要素を加えた農福体験ツアーを、障害者を持つ家族に訴求する場合、立地が適していること。

ウ 遠隔地募集で結果を得られずスタディツアーへ転換

農福体験ツアーとしては2月3日出発1泊で、募集ルートを「一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会」役員から愛知県および静岡県の育成会事務局に協力要請する形としたが、結果は集客ゼロであった。その後、農業に取組む特例子会社への集客、浜松市への集客依頼も行ったが、これも集客につながらなかった。最終的には、農福連携技術支援者に対してスタディツアーへの参加案内を送付したところ、12名の参加者が集まった。

エ スタディツアーの概要

○実施日 令和5年3月24日（金）

○行 程 浜松駅集合

タクシーにて「京丸園」へ移動。

午前、圃場・施設を視察。

昼食は市内のレストランひらまつ亭にて「京丸園」の野菜を使ったランチを食べ、同所にて鈴木社長の農福講話を聴く。

終了後、タクシーで浜松駅へ。

○負担金 参加費 1,000 円、昼食代実費

オ スタディツアーの参加法人

法人種別	参加者数
農福事業所	4
学校関係者	2
特例子会社	1
その他	5



カ 当日のカリキュラムの様子

カリキュラム	視察風景
① 顔合わせ、自己紹介 ② 鈴木社長より説明 障害者雇用が会社を発展させた。 ③ 洗い場 物を置かないゾーン（GAP の考え方）。右半身麻痺の障害者に合わせた機械の導入（誰でも操作できる機械）。 ④ チンゲン菜調整作業場 栽培面積を減らしたくないから栽培ハウス内には設置せず、ハウスとは別に作業場を設置 ⑤ チンゲン菜ハウス ハウス内の暑さ対策でミスト ⑥ チンゲン菜定植体験 集中力を確認するのに適している作業。 ⑦ 昼食 姫ねぎ、チンゲン菜、姫みつばの入ったプレートランチ。2つのテーブルに分かれて参加者同士の意見交換（鈴木社長、鈴木緑さんを交えて）。 ⑧ 鈴木社長により農福講話 衰退する農業を強くしたいという想い。強い農業を作るために戦略的に障害者に関わってもらいたい。 ⑨ 集合写真	 ②鈴木社長より説明  ③洗い場  ⑤チンゲン菜ハウス  ⑥チンゲン菜定植体験  ⑦昼食  ⑧鈴木社長より農福講話  ⑨集合写真

キ アンケート結果

■「京丸園」が取り組んでいる農福連携についての感想

- 農業経営改革の見本であることを再確認した。特に重要なことは農業技術の深化の継続と新たな知見の探索の両面を実現化していること。京丸園さんは、福祉分野の方を経営の戦力とすべく業務内容を変革することで、物理的な時間を確保し、多様な知見に接する機会を得ている。
- 様々な事例を現地調査しているが、農福連携を農業経営の改革まで反映させている経営体は稀である。
- どのように収益を生むのかについて、安定栽培ができる作物、ミニサイズで差別化、短い生育期間で回転率を上げる、というシステム作りに驚いた。
- 障害者雇用について疑問に思っていたところが多くクリアになった。

■参加法人の農福連携の取組計画、今後の連携の可能性

- 農業班5名の社員が9反の農地で露地栽培による野菜作り、水稻栽培に取り組んでいる。障害者向け体験農園も行っている。
- 農業体験と自社作物を使った食事をセットにしたプランを造成中なので、活用していただきたい。

■その他 ご意見・ご要望

- 農福連携技術支援者の認定を受けた他の事業者の方と交流ができ、有意義であった。

④ 社会福祉法人 博愛会 住吉浜リゾートパーク

ア 法人概要

所在地	大分県杵築市守江 1 1 6 5 - 2		
代表者	園長 釘宮 浩三	開所年	平成 2 2 年
主産品	いちご	耕作面積	1,500 m ²

イ 取組主体の選定理由

- (ア) 全国に取組の広がりを持たせる意味から、西日本の取組主体のひとつとして選択した。
- (イ) マリンリゾート一帯を一括運営する同パークは、広大な敷地内にホテル・レストラン・観光いちご農園などを有し、農作業体験＋観光のモデルとして最適の施設であること。

ウ 遠隔地募集で結果を得られずスタディツアーへ転換

農福体験ツアーとしては3月3日出発1泊2日で、募集ルートを「一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会」役員から福岡市の育成会事務局に協力要請する形としたが、結果は集客ゼロであった。その後、大分県庁の農福連携担当である福祉保健部障害者社会参画推進室から県内の福祉事業所、農業経営体等に幅広く集客したが、結果はゼロであった。最終的に、九州の農福連携事業所、農福連携技術支援者に対してスタディツアーへの参加案内を送付したところ、4名の参加者が集まった。

エ スタディツアーの概要

○実施日 令和5年3月26日(日)~27日(月)

○行 程

26日 杵築駅集合。タクシー、自家用車にて「住吉浜」へ。

住吉浜マリンホテル内のセミナールームにて、ミニセミナーを開催。ツアースタッフとして同行した、ゆずりは会菜の花の小淵氏、NPO 法人たがやす理事で大隅半島ノワフコンソーシアムプロジェクトマネージャーの天野氏が登壇。同ホテルに宿泊。

27日午前、就労継続支援A型、B型事業所として運営されている住吉浜マリンホテルのオペレーションを見学。

昼食は同パーク内の海鮮BBQレストラン「キツキテラス」にて（就労継続支援A型、B型事業所）。

午後は意見交換・質疑応答。終了後、杵築駅へ。

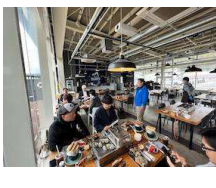
○負担金 参加費 1,000 円、食事代実費



オ スタディツアーの参加法人

法人種別	参加者数
株式会社	2
NPO法人	2

カ 当日のカリキュラムの様子

カリキュラム	視察風景
① ミニセミナー（26日夕刻） ゆずりは会菜の花 小淵久徳氏 大隅半島ハウコンソーシアム 天野雄一郎氏 質疑応答 ② 住吉浜マリンホテル 40名定員のA型、B型事業所。団体客中心にホテル事業。 昨年10月に海辺のキャンプ場を開設。 客室管理、レストラン運営等、多彩な作業に取り組む。 ③ 浜イチゴ園 ハウス5棟に、15mの液肥栽培施設が45列配置されている。障害者3名、管理者1名のチームで全ての作業を担う。 農山漁村振興交付金を活用して加工施設を建設し、いちごのソース、アイスクリーム等の加工品を製造し、観光客に提供。 ④ キツキテラス A型、B型として運営。年間の来客数は4万～5万人。客単価3,000円程度。接客、魚介類の下ごしらえ等、多彩な作業を障害者がこなす。大分県産の食材にこだわり、近隣のかき小屋と連携して「カキ街道」を形成し、地域活性化が進んでいる。	 ① ミニセミナー  ② 釘宮園長の説明  ホテルの作業見学  ③ 浜イチゴ園  ④ キツキテラス  集合写真

キ アンケート結果

■「博愛会」が取組んでいる農福連携についての感想

- 農業から観光業まで幅広く障害者の皆さんが関わっている姿を見て感動した。同時に障害を持ってもできることがあるので、可能性を引き出すこと、環境を整えることの重要性も感じた。
- ホテル・レストランの取組については非常に新しく、驚きが多かった。たくさんのヒントを持って帰れるというのと、今後の動機付けにつながった。
- 規模が大きく、福祉で観光を営まれていることに驚いた。しっかりとした運営で、収益もすばらしい。見本となることばかりで、特にいちごは導入を検討していく。
- いちご観光農園はB型で運営されているところに、役割が分担され指示、理解が上手くできていると感じた。
- 事務所や駐車場などもきちんと整備され、一般客も立ち寄りやすい条件が整っている。障害者施設とは思えないクオリティ。あえて前面に出していないところがとてもよいと感じた。安価な価格設定でリピーターにもなりやすい。

■参加法人の農福連携の取組計画、今後の連携の可能性

- 農業法人への施設外就労や、さつまいもを使用したノウフクプロダクト（さつまいものレアチーズケーキ）などを販売している。
- 農福のコーディネートや刑福の取組に取り掛かり始めている段階。
- ユニバーサル農園とキッチンカーの導入を検討している。
- 近くのいちご団地での作業受託を行っているが、高齢化により離農されるため、事業所で継承していきたい。
- 桜島での農福連携。
- 米粉用米と山芋の連携。

■その他 ご意見・ご要望

- 県外の農福連携はとても進んでおり勉強になる。考え方や取組など参考になるところが多く、利用者にとっての事業所を感じられる。
- 自治体の協力や理解は、担当者や方針でかなり変わってくる。ただ、農福に取組む仲間の連携が素晴らしく、力になる部分が多い。